

第31回

山形県造形教育研究協議会  
西置賜大会に寄せて



山形県造形教育連盟  
会長 吉田 明

第31回山形県造形教育研究協議会・西置賜大会が、水と緑と花のまち、そして文教都市として伝統ある長井市を会場に開催できますことを、心からお喜び申し上げますと同時に、協議会運営にご尽力された西置賜地区実行委員会諸氏に感謝の意を表します。

今年度の協議会は、山形県造形教育連盟の研究テーマ「豊かな創造性のもとに、学びをつなげる造形教育」のもとに行われる3年目の協議会です。

昨年度の酒田協議会では、「輝き・感動・夢ひろがる造形教育を目指して～かかわりの中から広がる おもいと形・自分色～」のサブテーマのもと、ねらいを明確にし、感動を生み出す題材の工夫・一人ひとりのおもいを引き出し深める指導の工夫・かかわり合いを通して、見方や感じ方を広げる指導の工夫を視点を研究討議を行いました。協議会を通して、幼保小中の教師間のつながり・造形活動による発達の重要性、実践と研究の大切さを改めて確認することができました。

今年度の西置賜大会では、これらの成果を踏まえながら、県の共通テーマに「かかわり合う力を大事にして」というサブテーマを掲げ、地区で積み上げてきた「豊かな創造的活動の実践」をさらに発展させ「創造的活動を追求する気持ちや手だて・方法を重視し」、さらに「校種間をつなぐ具体的な学び」を明確にしようと研究を推進してこられました。

私たち造形教育を担う現場の環境は一層の厳しさを増しています。今年の福島における全国大会では、一面においてその危機感を共有する場でもありました。私たち造形教育に携わるものにとって、「図工」「美術」「造形教育」とはどのような教科で、何のために存在する教科なのか、どんな力を付けることができる教科なのかなどといった「教科の本質」に迫る課題を原点に立ち帰って問い直すことが今こそ必要であり、それだけに止まらず、造形教育が何よりも子供たち自身にとって魅力ある教科であり、同時に社会にとってもなくてはならない教科であることを積極的に発信する機会にしていかなければならないと考えます。

終わりに、本大会を開催するにあたりご指導ご支援頂きました山形県教育委員会・市町教育委員会はじめ関係機関、関係諸団体の皆様に心から御礼申し上げます。また、これまでの研究推進・準備等に意欲的に取り組んでこられた先生方に重ねて敬意と感謝の意を表します。